# 学生大使　実施報告書

氏名：白幡莉南
学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部　人間文化コース　4 年
派遣先大学：ガジャマダ大学
派遣期間：2024/8/29～2024/9/12　(2 週間)

## １　日本語教室での活動内容

【授業時間】
月曜日から金曜日まで 1 日 2 回。
午前 10：00～11：30、午後 13：30～15：00 までの各 90 分間。

【授業の様子】
英語で日本語を説明するため個人的には苦労することが多かった。だが、現地学生の英語能力が非常に高く、拙い英語でも言葉を汲み取り理解してくれていた。学生は積極的で勉強意欲が高い印象。盛り上がる場面では、盛大に盛り上げてくれて、我々もとても楽しみながら授業をすることができた。

【授業形式】
日本語クラスに参加する生徒の人数は毎回ばらつきがあった。少ない時は 10 名ほど、多い時は 35 名ほど。学生は自由参加であるため、一度だけ来る人もいれば毎回の授業に参加する学生もいた。現地学生の日本語レベルは様々。日本語で日常会話ができる人、N3 を持っている人から、ひらがなが読めない人まで、その能力は様々であった。従って、初級・中級・上級と分けてそれぞれ教えるのが好ましいと派遣先の大学からも言われた。だが今回は派遣人数が 2 名だったため、以下３つの形式を取った。

①能力に関係なくランダムに２つのグループを作り、同じ内容を全員が学ぶ

②「〇〇を学びたい人」「△△を学びたい人」とテーマを提示し、各自が学びたい方を選択する

③2 名が教壇に立つ講義形式（日本人 2 名対現地学生全員）

【授業内容】

- ひらがな、カタカナ、漢字
- 自己紹介の言い方
- 数字

【学生大使 実施報告書】

- 日付（曜日、暦）
- 動物、食べ物、体の部位
- 日本語曲の歌詞の意味

【工夫した点】

- 週に 2.3 度ほど、授業の最後 30 分間を「フリータイム」を設けた。質問や何気ないおしゃべり、写真を撮ることができ、仲が深まったと思う。
- 毎回授業の最後 30 分間「ゲーム大会」を行った。じゃんけん、あっち向いてホイ、指スマ、かるた等を日本語で教えた。勝者にプレゼントで日本のお菓子を渡すと喜んでもらえた。
- ことあるごとに質問はないかを生徒に聞いた。ほとんどの場合、生徒が何かしらの質問をしてくれたため、質問を一つ一つ答えていると気づいたら授業終了時間となることが多々あった。
- 月曜日から木曜日は言語学習、金曜日は文化紹介をベースとした授業をするように現地大学からの要望があった。金曜日にカレーライスとお好み焼きを作る料理教室を開いた。ある程度の材料を日本から持っていき、現地大学の先生のご協力もあり、多くの学生に日本の料理を楽しんでもらうことが出来た。

## ２　日本語教室以外での交流活動

授業時間以外は常にバディーが 2、3 名ほど行動を共にしてくれていた。週末には卒業生も遊びに来てくれることもあった。また、日本語授業に参加した学生にも声掛けをすると、喜んで遊びや食事に連れて行ってくれた。（朝食はホテルで提供されるため各自の部屋で食べた。）

休日はジャワ島内の様々な場所に遊びに行くことが出来た。ビーチやボロブドゥール遺跡、マリオボーロ等に行った。時には学生のバイクに乗せてもらうこともあり貴重な体験となった。

## ３　参加目標への達成度と努力した内容

【参加目標】

自分の考えや意見を正直に表現する

目標達成度は 70 パーセント。今回の派遣にあたり参加者が 2 名と少人数であることが分かっていたため、良くも悪くも各々の意見が尊重され影響力が大きいことが予想されていた。行きたい場所や食べたいものを予め考えるように心がけた。バディーの皆さんは、私たちの要望に応えようとしてくれているため、何を食べたいか、どこに行きたいかと毎日質問してくれた。その質問にすぐに答えることでより充実した時間を過ごすとともに、インドネシアの文化、食事、場所等に興味関心を持っていることを示すこととなった。時には、疲れや嫌いなもの等のネガティブな感情も正直に示すようにした。自分の意見を明確に持つことが出

来た反面、その意見を英語で明確に表現することが困難であった。英語の語彙力不足から、一つひとつの感情や考えを説明づけて伝えることが出来なかったのが反省点である。

**４　プログラムに参加した感想**

派遣前はインドネシアに関する知識が全くなく、本プログラムがなければ行くことも関わりをもつことも無かったと考えられる国だった。実際にインドネシアに行くことで、その土地や伝統の魅力、人のやさしさを直で感じることが出来、今では大好きな国の一つとなっている。不安や負担が大きかったが、参加することを決断して良かったと心から思っている。

**５　今回の経験を踏まえた今後の展望**

自分の感情を自由に表現できなかった悔しさが残っており、今後、円滑なコミュニケーションを図るために英語力向上に努めていきたい。今回の派遣で、不安や疲れがある中で現地の方々のやさしさに救われ助けられた部分が大きかった。その優しさを、現在日本で困っている人や不安を感じている留学生等に返していきたいと思っている。派遣を通して学んだコミュニケーションの取り方を活かし、滞在中に自分が困難だったことを思い出しながら、自分が出来ることをしていきたいと思う。

結びに、今回の派遣では想像と異なることが多くあり様々な困難に直面したが、その都度、解決に向かいアドバイスや行動をとってくれたインドネシアの学生、私たちの活動を温かく見守ってくださっていた菅原靖先生を初め国際交流課の皆様、Ipik 先生、牧先生、そのほかサポートしてくださった方々の多大なるご尽力に御礼申し上げます。

【学生大使 実施報告書】

フェアエルパーティーの様子

料理教室の様子

【学生大使 実施報告書】

ビーチ

ホテル（一人用）